

平成 28 年度事業報告

I. 主要会議：

1. 平成 28 年 5 月 26 日（木） 理事会、評議員会同時開催
 - ・平成 27 年度事業報告・決算案の承認
 - ・平成 28 年度の予算の修正案の承認（4 月入学新入生の会費納入が見込みを下回ったため）
 - ・役員の一部変更案の承認
 - ・大学より卒業生基金室設置の主旨・計画の報告
 - ・ホームカミングデーの計画概要の報告
 - ・学生幹事会体制の報告
 - ・YNU 同窓会・校友会会長連絡会発足の報告
2. 平成 28 年 10 月 11 日 理事会、評議員会同時開催
 - ・Facebook を校友会公式 SNS 採用の承認
 - ・平成 28 年度上半期事業実績及び収支実績と下半期事業計画及び年間収支見込の報告
 - ・校友会総会・ホームカミングデーの予定について報告
 - ・YNU 同窓会・校友会会長連絡会関連の報告
 - ・卒業生・基金室から報告
 - ・長谷部学長より大学の近況報告
 - ・英語名称について、杉田亮毅会長より「会長による裁定案」について報告
英語名 Alumni Association を“YNU Connect”とし、A community for alumni, students, faculty, staff and friends of Yokohama National University と説明書きをつけることを提案され、了承された。
3. 平成 28 年 10 月 29 日（土） 横浜国立大学校友会総会
 - ・杉田亮毅会長挨拶
 - ・平成 27 年度事業報告と決算報告
 - ・平成 28 年度事業計画・事業見込と収支予算・実績見込みの報告
 - ・会員からの質疑
4. 平成 29 年度 3 月 9 日（木）理事会、評議員会同時開催
 - ・平成 29 年度事業計画案と予算案の承認
 - ・次期役員改選案の報告・審議、事務局長の承認
 - ・平成 29 年度ホームカミングデー計画の報告
 - ・平成 29 年度 4 月入学者への校友会・同窓会入会案内書類の送付（大学入試合格者への入学手続き案内に同封）とオリエンテーション及び入学式後の保護者会での校友会・同窓会説明についての報告
 - ・卒業生基金室長よりアンケート調査協力の依頼

- ・大門理事から大学基金関連で「グローバルエクセレンス大学を目指して」について報告
- ・長谷部学長より大学の近況報告

5. 専門委員会の開催

- ・総務財務委員会 2 回（いずれも企画委員会と合同）
- ・企画委員会 5 回（うち総務財務委員会と合同 2 回、部活プロジェクト 2 回）
- ・HCD実行委員会 3 回
- ・広報委員会 3 回
- ・交流運営委員会 3 回
- ・学生幹事会随時

○新入生からの校友会費納入状況と課題

- ・4月30日現在 ***前年度 728 名（前年同日比 101.96%）**

II. 主要事業実績：[661 千円]

1. 新入生向け事業

○新入生交流等（学部・大学院等）

- ・清陵祭にテント参加することを予定していたが、常盤祭と同日開催となったホームカミングデーにおける交流としたため、経費支出はなかった。

○まなび座

- ・キャリア教育支援の一環として、1 年前期に社会人基礎力養成講座「まなび座プロジェクト」を実施し、主体的に考え取り組む姿勢を育成。卒業生講師派遣（12 名。講師謝金・交通費）を支援。

○新入生説明とイベント

- ・大学からの入学手続き案内に校友会案内パンフレットなど各同窓会案内と同封。
*会費納入者には「会費納入礼状+会員証」送付（3/20 入金迄を目安に。あとは事務局手渡し）
- ・入学式直後に保護者同席の場で、校友会会長から挨拶・校友会主旨説明。
- ・入学式の前日の各学部・EP ごとのオリエンテーションで、校友会の説明（同窓会案内と並行）
- ・学部別保護者会で校友会の説明（入学式午後中心に、同窓会案内と並行して校友会案内を）
- ・新入生会費未納者への再アプローチ（8 月末～9 月、同上会報誌・振込用紙同封）

2. 広報活動【1,494 千円】

○会報誌印刷費

- ・「横浜国立大学校友会会報誌」を発行し、校友会の活動や横浜国立大学の動向（現役学

生の活躍情報等を含む) などについて会員に情報発信を行った。また、今年度は特別企画(卒業生座談会)として「最先端で輝く YNU の OG たち」を企画・発行し、会員相互の絆を深めるとともに、現役学生の学生生活にも役立てた。

○会報誌通信・運搬費(会員加入促進活動)

- ・校友会報誌送付(8月末今年度事業途中報告と今年度事業計画を保護者に報告)

○校友会説明会

- ・校友会活動を説明するための紹介 VTR 作成を企画したが、実施できなかった。

○学内・学外広報費

- ・YNU ブランドアップに向けた若手校友会による情報発信を企画したが、実施には至らなかった。

○HP 更新作業費

- ・実施事業等の写真を見ることができるギャラリーページを開設し、スマホ対応の画面に改修し、より多くの会員に親しみやすい情報発信を行い、校友会の認知、関心を高める工夫を行った。
- ・フェイスブックなど SNS 活用にむけて準備を進めている。

3. 全学生対象の事業【2,584 千円】

○外部講師招へい講演会：4 学部と校友会共催し、以下の講演会を実績した。

- ・教育人間科学部：参加人数
日時：11/25(金) 5限 16:15-17:45 250名
場所：教育6号館101教室
講師：新井 健一氏 ベネッセ教育総合研究所理事長
テーマ：「これからの公教育と学校外教育の在り方」
- ・経営学部・経営学会：
日時：12/1(木) 10:30-12:00 321名
場所：経営学部講義棟A棟1号館 営-108 教室
講師：飯島 彰己氏 三井物産(株)代表取締役会長
テーマ：「グローバル化の変質と『現場力』」
- ・経済学部：
日時：12/2(金) 5限 16:15-17:45 70名
場所：経済学部 101 号室
講師：大泉 啓一郎氏 日本総研 調査部上席主任研究員
テーマ：「アジアの未来、日本の未来 今起きていること、起こること」
* 学部での周知が不足していました。
- ・理工学部：
日時：12/6(火) 5限 16:15-17:45 25名

場所：理工学部A棟 201 号室

講師：笠原 伸元氏 旭硝子㈱技術本部企画部 主幹

JMTCエンザイム㈱取締役CTO

(植物由来有機酸の開発・製造・販売)

テーマ：「化学企業の概要とその研究所におけるケミカルエンジニアの役割」

○ライフプランセミナー

・学生幹事会で予備講座の形式で実施したが、時期早々の反応にて本年度は実施できなかった。今後学生向きの内容を検討の予定

○グローバルビジネス・コミュニケーション（異文化中心）

- ・2年生以上（秋学期）：異文化理解とコミュニケーションカ 2 単位、市村准教授担当
グローバル実践講座と開講時間重なった為受講生が少なかった。
(次年度は曜日・時限変更予定)

○グローバルビジネス実践講座（ビジネス中心）

- ・2年生以上（秋学期）：各種業種の海外勤務者からの体験談をベースに、国の制度国民性等も含めて実践的な知識、英語での授業も一部取り入れる。2 単位、経済学部植村教授担当（全学部に開放）、コーディネータは関仁非常勤講師。受講者の評価はいいので、更に受講生を増やす工夫を。

○留学モチベーションアップイベント（留学経験者による座談会）

- ・国際戦略推進機構が開催のインターナショナルウィークの、留学体験者と留学を志す学生の座談会等のイベントを支援

○アプリコンテスト

- ・第3回アプリコンテスト支援：校友会と情報基盤センター共催
- ・11月20（日）の決勝戦をみなとみらいの横浜ワールドポーターズにて開催。
- ・応募総数62団体の中から開発部門賞、企画部門賞、開発部門情報基盤センター長賞、企画部門情報基盤センター長賞、スポンサー賞（NewsPicks 賞、情報戦略テクノロジー賞、Rakumo 賞）をそれぞれ授与。
- ・学生幹事会が実行委員会の中心で活躍。企画・寄附金募集も行い外部から賞金・賞品の協賛も得た（予算上はマイナス収支に見えるが、本事業支援指定の515千円の寄附があったため、実際には経費をカバーできている。）

○部活コンテスト

- ・文科系、体育系の2グループで事前の予選審査を経て、HCD で決勝の発表・パフォーマンスを行い、表彰状と副賞授与。学生の課外活動活性化に寄与できた。

○就職支援活動

- ・2月18日（土）にキャリアサポートルーム及び3同窓会と校友会が連携して、模擬面接会を開催。

50名弱の同窓生等が面接官として協力。100名の募集を上回る応募があり学生の関心の高さを確認できた活動であり、当日の参加学生から好評を得た。

4. 卒業時の事業【0千円】

○平成28年度対象事業無し。

5. 全会員対象の事業【2,145千円】

○ホームカミングデー（HCD）事業

- ・大学と共催、各同窓会の協力を得て、現役学生との交流を活発化する意図で昨年同様、常盤祭初日(10月29日(土))に同日開催。

実際には、双方のイベントが同時進行のため、常盤祭参加の学生とHCD参加者との相互の交流が難しく、次年度については日にちの設定に再検討が必要という反省。

- ・メイン講演は、大学の近況をひろく知ってもらう趣旨で、先端科学高等研究院の代表4つのユニットから研究報告を実施。
- ・初めてのビックイベントとして、著名なオペラ歌手笛田博昭氏のオペラとカンツォーネを藤原藍子さんのピアノ演奏と、本学現役とOBのグリークラブの合唱とのジョイントコンサートで聴衆に大きな感動を与えた。
- ・交流会には、名誉教授も多数参加され、恩師を囲んでの和やかな楽しい雰囲気の中行われた。

○イベント・コンサート等

- ・HCDと同時開催とした為、経費はホームカミングデー事業から支出したため、経費支出無し。

○社会人の先輩と留学生・日本人の学生との交流会

- ・横浜（10/16）と東京（1/20）で2回開催。全学部を対象に留学生・日本人学生が参加し、若手卒業生のプレゼンと車座懇談会を行った。現役学生が普段聞きにくいことも質問できる雰囲気をつくっているため、双方の参加者から好評を得ており、継続して開催し、口コミの効果もあげていきたい。

○地域・職域校友会

- ・地方開催の合同同窓会への参加や、職種別の交流会の実施を想定していたが、実施できなかった。

○海外校友会

- ・学長がフィンランドのヘルシンキと韓国のソウルで開催した全学部横断同窓会に出席。
- ・国際戦略推進機構が窓口となり呼びかけている海外同窓会に、今後は、校友会も連動していくことができれば良いと思われる。

○学生幹事会

- ・学生幹事会における打合せ等活動経費を支援。

校友会の活動の主たるターゲットは学生であることから、来年度は学生が要望する活動を、自ら企画・実行するイベントなどを増やし支援を強化する。

○再就職支援活動

- ・平成28年度対象事業無し。

6. 寄附支援事業【0千円】

7. 固定費【2,438千円】

○人件費

- ・大学が負担したため、今年度の支出は無かった。

○事務局諸経費

- ・会費振込票印刷経費、会費等振込手数料、会議費、通信費、消耗品費、職員交通費等

○会員加入促進活動

- ・未加入新入生保護者等にむけた会報誌・加入申込書等郵送経費

○会員管理システムランニング費用

- ・会費管理システム、CANPAN サービス

校友会費納入者会員に会員証を発行。校友会への帰属意識を高め、イベント等への無償参加に利用など。

CANPAN サービスは、寄附をオンラインで行えるサービス。

8. 予備費【1,628千円】

○新会員用ノベルティー、朝食サービス支援

・新規加入（平成29年度）する会員に配布するための記念品としてブックフォルダーを作成。

- ・大学が企画した朝食サービス事業を支援し、会員には100円割引券を日数分配布。

○ドメイン・アカウント登録料

- ・校友会のメールアドレスドメインを取得（）
- ・校友会のWebサイト管理用アカウントドメインを取得（15名分）。

○学事暦カレンダー（配布用）

- ・保護者からの声を受け、学事暦が記載されたオリジナルカレンダーを作成。平成29年4月入学会費納入者とすでに会員となっている者へ学事暦カレンダーを送付。

以上